



人と人のつながりから 生まれる「感動」を 地域へ、世界へ、未来へ。

大学の理念「違いを共に生きる」を実現する拠点、コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)。ここから、学生たちが広い世界へ一歩を踏み出し、かけがえのない出会いや経験を重ねています。

地域に根ざし、世界に開く 学生たちのさまざまな思い

ブイ 学生たちの思いを地域へ広げ、大きな花として咲かせたい。こうした信念のもと、2006年にコミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)が開設されて6年。多くの学生たちが地域での活動に主体的にチャレンジするようになりました。CCCを一言で表すなら、学生が成長するための場所。スタッフが一人となり、一人ひとりの輝く個性や力を引き出しながら、学生と学外の多様なコミュニティとを結びつけ、学生たちの新たな一歩を応援しています。まさに今、CCCで活動中の皆さんは、どんな一歩を踏み出してい

ますか？

羽田野 今、一番熱中しているのが、「地域での中高生の居場所づくり」です。スポーツ・健康医科学科での学びも取り入れて、年齢もこえて皆で一緒に楽しめるニュースポーツの実践を企画しています。

西山 僕もビジネス学部での学びを活かして活動中です。不要になった教科書を集めて販売し、その収益を途上国の学習支援として届ける「教科書リサイクル」を推進しています。まだスタートして間もない今は、多くの人の協力を得ることの難しさを痛感しているところです。

菊地 私も現在取り組んでいるTFT(TABLE FOR TWO)活動を、より多くの人に広げ

るために、さまざまな人とのコミュニケーションを大切にしています。この活動は、学食の特別ランチの料金の一部を、アフリカへ食糧支援として寄付することが目的。一人ひとりの力の尊さを、改めて感じています。

ブイ CCCのもうひとつの意味が、「Combination:協力し合うこと」、「Cultivation:育成し合うこと」、「Challenge:チャレンジすること」。皆さん、この3つのCも自然と実践しているようですね。

人と人のつながり、 地域の力は、無限大

小松 私はCCC開設科目を通して企業のCSR活動の企画か





文学部
教育学科
3年生

菊地純奈さん



福祉貢献学部
福祉貢献学科
社会福祉専攻
3年生

都築康成さん



交流文化学部
交流文化学科
3年生

小松双葉さん



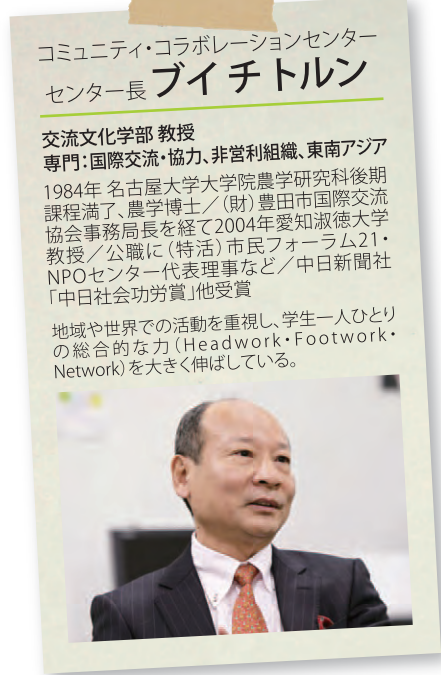
ビジネス学部
ビジネス学科
2年生

西山典佑さん



健康医療科学部
スポーツ・健康医科学科
3年生

羽田野有紀さん



コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 **比叅トロン**

交流文化学部 教授
専門：国際交流・協力、非営利組織、東南アジア
1984年 名古屋大学大学院農学研究科後期課程満了、農学博士／(財)豊田市国際交流協会事務局長を経て2004年愛知淑徳大学教授／公職に(特活)市民フォーラム21・NPOセンター代表理事など／中日新聞社「中日社会功労賞」他受賞

地域や世界での活動を重視し、学生一人ひとりの総合的な力(Headwork・Footwork・Network)を大きく伸ばしている。

西山 教科書を販売している書
えいていますか？

CCCから人へ、地域へ
「感動」の輪を広げる

菊地 今後、皆さんはCCCでの
経験をどう活かしていきたいと考
えていますか？

都築 CCCでの地域活動や地
域の福祉施設でのサークル活動を
通じて気づいたのは、「身近な地域
を知ることの大切さ」です。地域で
さまざまな人と出会い、活動する
たびに新たな出会いが生まれ、自
分の世界がどんどん広がっている
のを感じています。今、力を入れて
いる「リニモ沿線合同大学祭」の企
画・運営の活動も、そうした出会
いの先で知りました。

小松 CCCでの活動を通じ、さ
まざまな人と信頼関係を築きた
めにも、思いを伝え合うことが大
切だと感じました。また、CCC
での活動で見出した「地域貢献を
推進する企業で働きたい」という
志を果たすために、就職活動にも
意欲的に取り組みます。

都築 CCCから地域に出て、ま

菊地 小学校教員を志望してい
る私は、CCCやゼミでの外国籍
の子どもたちとの関わりを大切に
していきます。そして将来、教壇に
立つときに、子どもたち一人ひと
りの成長を後押しできる力を培い
たいと思います。「違いを共に生き
る」ことの尊さについて伝えること
ができる教員をめざします。

羽田野 障がいのある子どもたち
とのボランティア活動と、ゼミでの
「障害児のスポーツ支援」の研究を
リンクさせながら、さまざまな人
にスポーツの楽しさを伝える力を
磨きたいと考えています。CCC
で積極的に行動するようになっ
て、興味の幅が広がり、学びたいこ
ともどんどん増えています。

比叅トロン 店にも協力していただき「教科書
リサイクル」を軌道に乗せたいと
考えています。将来、自分で事業を
立ち上げたいと考えているので、
そのスキルも身につけたいと思っ
ています。



ちづくりを支えている人の熱意に
ふれ、自分も地域のために何かが
したいと、今、強く感じています。
地域での人との出会いや関わり合
いの中で生まれる「感動」を、より
多くの学生や地域社会の人々に
伝えていきたいと熱意を燃やして
います。

比叅トロン 皆さん、視線が地域へ、未
来へと向いていて、とても頼もし
い。私たちCCCスタッフが願う
以上に、力強く成長しているのだ
と、今日、皆さんの思いを聞いて確
信しました。実際に自分の心も頭
も体も動かして感じる「感動」は、
何物にもかえがたいものです。そ
の「感動」を今後もCCCの活動
を通じて心に積み重ね、より広い
世界へ、一歩を踏み出してくださ
い。私たちが全力で応援します。